

森づくりの最前線

下越森林管理署 村上支署 村上森林事務所 森林官 中束 敏之



抱卵中のミサゴ

村上森林事務所は関東森林管理局管轄区域の最北部、新潟県村上市の中央に位置し、旧村上市と旧神林村の国有林野、およそ5,500畝を管轄しており、日本海に面したアカマツを主とした海岸林から山岳地帯の原生的なブナ林まで、多岐にわたり様々な森林の様子を見ることができます。

日本の白砂青松百選に選ばれ、かつての村上藩主やその家臣がアカマツ林に紅白幕を張り野宴を楽しんだとされる「お幕場」と呼ばれる地区では、マツクイムシによる被害を防止するため、村上市と協力して病虫獣害防除事業を実施しています。マツクイムシの被害から守られた樹齢百年を越えるアカマツ林には、オオタカやミサゴなどの猛禽類をはじめ多くの野鳥が生息し、近隣の人々の憩いの場としても親しまれ、安らぎを与えています。

また、開湯百年を迎えた瀬波温泉地区では、失われたマツ林を取り戻すため保安林改良事業を進めており、地元瀬波小学校6年生による卒業記念植樹や地区ボランティアの皆さんにより手入れされたアカマツやクロマツの幼樹が、子どもたちの成長とともに、すくすくと育っています。



失われたマツ林を取り戻す保安林改良事業

当事務所管内には、北は朝日山地に水源をもつ三面川、南は朝日飯豊山地から流れる日本一水質のきれいな清流に選ばれたこともある荒川があり、サケやサクラマス、アユなどの漁場として、多くの釣人に親しまれています。三面川河口には魚つき保安林が明治30年に指定されるなど、古くから海、川、山の連携が密接で、良好な関係が保たれてきている地域です。

村上市では、平成23年1月に、市の木・花・鳥を制定し、市の木として、市内の国有林野に広く生育するブナ、市の花として海岸保安林付近に自生するハマナス、市の鳥としてクマタカを選出しています。いずれも村上市の豊かな自然を象徴しています。

当支署の森林官として1年が過ぎました。環境に配慮しながら地域とともにマツ林の保全や育成など課題も多く、管内の状況をすべて熟知するには至っておりませんが、「村上のことは彼に聞けばわかる」と言われる森林官をめざし、日々努力していきたいと考えています。



地元瀬波小学校6年生による卒業記念植樹



三面川のサケ漁